



# 華となれ!

宮城県仙台二華中学校  
学校だより 第35号  
【発行日】平成31年1月29日  
【連絡先】022-296-8104  
【文責】  
1学年主任 菅原 正嗣

【校訓】 『進取創造』『至誠貢献』

【教育方針】 豊かな心と高い知性を持ち、進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして、わが国や世界の発展に貢献できる人間を育成する。

## 【SR冬巡検を終えて～雄大な泉ヶ岳の自然の中で学ぶ～】

1学年は1月21日(月)に泉ヶ岳にてSR冬巡検を実施しました。生徒たちを待ち受けていたのは、小雪が舞う銀世界。前回までとは異なる厳しい環境での巡検となりました。それでも、「子どもは風の子」のことわざ通り、生徒たちは冷たい空気の中にあっても元気いっぱいに学習活動に取り組んでいました。以下、生徒たちが綴った作文を交えて、当日の学びの様子をご紹介します。



午前中は「我々の木」の観察を行いました。樹形のスケッチ、樹木の直径や高さの測定、相対照度の測定、冬芽の観察、林床の環境観察などに取り組みました。生徒たちは「我々の木」が季節の移ろいの中でどう変化しているか興味津々で、仲間と協力しながら熱心にデータを収集していました。その様子から実証的かつ科学的に問題を捉える力が身に付いてきていることを実感しました。



◆ スコップで深さ30cm以上も雪を掻き出しました



◆ 追いつけてきた「我々の木」と最後の記念撮影

「ぬくもりの木」

MHさん(1B)

雪というのは、本当に景色を一変させるものだった。前回までは葉の緑や木々のこげ茶、澄んだ青空、色にあふれていたのに、今回は雪に反射した太陽光できらきらと輝いていた。数ヶ月ぶりに見た“我々の木”は、何だかとてもたくましく見えた。雪の重さや冬の寒さに耐え、春に備えて小さなつぼみを付けていた。本当に小さかったけれど、それがその木のたくましさを表しているようだった。その後も肌をつき刺すような吹雪は止まなかったが、あまり寒く感じなかったのは“我々の木”への愛着故か、それともただの気のせいだったのか…。



午後はスノートレッキング。最初は足を取られて転ぶ生徒もいましたが、スノーシューの前側のツメを雪に食い込ませるようにする歩き方に慣れると、隊列を崩すことなくスイスイと移動することができました。ギョツ、ギョツと雪を踏みしめる感覚は心地良く、新雪に覆われた泉ヶ岳の魅力を体感しました。また、散策ガイドの説明にも熱心に耳を傾け、冬の自然の醍醐味を学びました。



◆ スノーシューを履くのにみんな一苦労しました



◆ 散策ガイドの説明に傾聴し、大いに学びました



◆ 全ての学習プログラムを終えて、クラス毎に記念撮影～お世話になった全ての方々に感謝！～

「成長を感じたSR巡検」

SMさん (1A)

私が3回のSR巡検を通して感じたよさは、いろいろな人と交流を深められたことだと思う。春、私は知り合いがほとんどいない中でこの巡検に臨んだ。不安だった。しかし、仲間づくり活動を通して、クラスメイトとの絆も深まり、徐々に学校生活への不安も消えていった。秋と冬の巡検にも楽しんで参加することができた。また、泉ヶ岳の大自然とのふれあいの一つである「我々の木」の定点観測によって、自然の変化と成長を自分の目で見て感じる事ができた。私も「我々の木」と共に大きく成長できた1年間だったと思う。

これで予定された3回の巡検は無事終了です。上の生徒も書いている通り、生徒たちは3回の巡検で、理科的な知識ばかりでなく、仲間との絆や二華中生としての自信や誇りを手にしました。

今後、総合的な学習の時間で調査結果のまとめを行います。観察結果をまとめた力作揃いのポスターは、3月中旬以降、本校エントランスに掲示する予定です。ご来校の際はぜひご覧ください。

